

【2018. 10. 1発信：VOL. 17】

VOL. 17は、以下の内容でお届けします。

- 台風21号、北海道胆振東部地震 参議院議員 進藤金日子(かねひこ)
- 棚田地域振興法案（仮称）の提出に向け議論を加速
- 農事用電力の経過措置延長に向けて
- 宮崎まさおさんと二人三脚で意見交換会等を実施
- 活動状況（2018.9.1～9.30）

■ 台風21号、北海道胆振東部地震
参議院議員 進藤金日子(かねひこ)

非常に強い勢力で徳島県に上陸した後、速度を上げながら近畿地方を縦断した台風21号や震度7の激震を記録した北海道胆振東部地震の発生など異常な自然災害により多くの方々がお亡くなりになりました。ご冥福をお祈りしますとともに、被災された皆様にお見舞いを申し上げます。

我が国は、気象条件や地形条件等から災害が多発する国であることを国民一人一人が自覚しなければならぬと痛感しています。私自身、度重なる災害の惨状を目にして多くのことに改めて気付きました。防災、減災対策が講じられているところは、被害が軽減されているという現実があります。防災、減災をハード対策で全て行うことは困難だと思いますが、少なくとも現在計画されているものは早急に実現すべきです。そして、ハード対策とソフト対策の組合せにより、地域毎に異なる災害の脅威に備えていかなければなりません。よく自助、共助、公助と言われますが、これらの意味することを皆で確認し、共有しながら強靱な国にしていくことが必要です。まさに国土強靱化を国民全体で推進していくことが重要です。

私自身も最大限の努力を傾注して参ります。

=====

■ 棚田地域振興法案（仮称）の提出に向け議論を加速

棚田は、国民への農産物の供給にとどまらず、国土の保全、水源のかん養、自然環境の保全、良好な景観の形成、伝統文化の継承等の多面にわたる機能を果たしてきており、国民共有の財産であり、我が国の稲作文化の原点であり、多くの国民がその価値を認識し、保全を望んでいる状況にあります。

しかしながら、人口減少、過疎・高齢化の進展等に伴い、一方で近年、耕作放棄される棚田が増えており、全国各地で棚田が荒廃の危機に直面している状況となっています。

このため、自民党棚田支援に関するプロジェクトチーム事務局次長として、棚田地域の持続的発展のための法案を提出すべく関係する先生方と連日精力的に議論を進めています。

特に、棚田保全主体等が円滑に対策を講じられるよう農業のみならず各府省の関連施策のパッケージ化、現場の自主性が最大限尊重されるような計画決定・認定制度、国の支援制度等について議論を深めています。

意見・要望等がありましたら国会事務所までご連絡ください。

=====

■ 農事用電力の経過措置延長に向けて

電力の小売りは、平成 28 年度から完全自由化されている一方、50k w以下の低圧分野については、需要家の保護の観点から経過的な措置として従来と同様の規制料金が維持されています。また、各電気事業者においては、農業等への影響を踏まえて、特別高圧、高圧分野においても従来の農事用電力メニューを継続して頂いています。

しかしながら、この経過措置が平成 32 年 3 月末までとなっているため、仮に経過措置が撤廃された場合、農業水利施設の維持管理への影響が極めて大きくなることが必定であり、農業の持続的発展や成長産業化、農村の振興に甚大な影響を与えてしまいます。

このため、農事用電力メニューの継続に向け、関係者が一丸となり関係省庁等へ強く延長を求めて参ります。

=====

■ 宮崎まさおさんと二人三脚で意見交換会等を実施

全国各地の皆さんのご要望等に応じて、国会閉会中の合間をぬって、全国水土里ネット会長会議顧問の宮崎雅夫（みやざき・まさお）さんとともに、全国各地にお邪魔し国政報告や意見交換会等を行っています。

宮崎雅夫さんは、私と30年近く一緒に農林水産省で働いた同志です。昨年末、農林水産省を地域整備課長で退職し、現在、精力的に全国を廻り、政治活動に拍車をかけています。二人そろってお邪魔できれば良いのですが、場合によっては別々とならざるを得ないこともあります。二人とも、「強い農林水産業」と「美しく活力ある農山漁村」を創るため、現場主義、地域主義を念頭に活動していますので、ご意見・ご要望はどちらでも構いませんのでお邪魔した際、多くの声をお寄せください。

※ 宮崎雅夫（まさお）さんのプロフィール・活動状況等は以下のアドレスから参照願います。

<http://miyazaki-noson.jp/>

=====